

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-111	中学校	外国語	英語	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	英語 801	NEW HORIZON English Course 2		

1. 編修の基本方針

— 豊かな学びが未来を拓く —

2年生のテーマ **英語を通じて世界を広げよう**

言葉で 世界に飛び出そう

言葉は、使う人々の考え方が反映され、その暮らしや文化、歴史と切り離せません。そのため、新しい言語を学ぶことは、新しい考え方、文化や歴史などを学ぶことにつながります。

1年生でも題材を通して世界各国に触れてきましたが、2年生でさらに別の国々の生活や文化に触れることによって、視野を広げ、英語の「見方・考え方」を身につけていくことができるでしょう。

本教科書は、教育基本法の目的および理念を踏まえ、主体的・対話的に学びに向かい、積極的に他者や世界とつながる心とコミュニケーション能力を育成することを目指します。



特色

1

学びの意欲の喚起

自立した
英語学習者を
育てる



特色

2

学びの質の向上

深い学びへと
いざなう



特色

3

学びの連続性の重視

小中高の学びを
つなげる

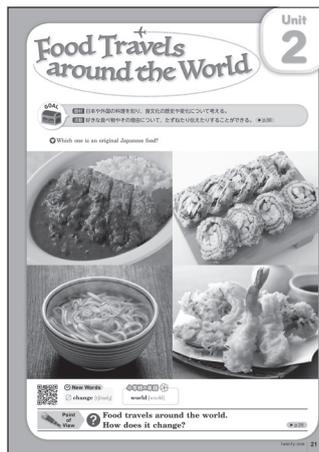


特色

1

【学びの意欲の喚起】 自立した英語学習者を育てる

- 学びたい気持ちと自ら学ぶ力を高めることで、生涯にわたって学びを継続できるようにしています。
- 2年生の発達段階に合わせて、生徒の興味・関心を引き出す**多様な題材**を取り上げ、**英語学習への意欲**を高めるようにしています。
- 1年生より一歩進んだ「学び方コーナー」を設け、英語の学習のポイントを示しています。語彙を増やすための「単語の覚え方」や、3年生につながる「意見の述べ方」を扱ったりして、**効果的な学習方法**が身につくように配慮しています。



▲融合する食文化(p.21 Unit 2)



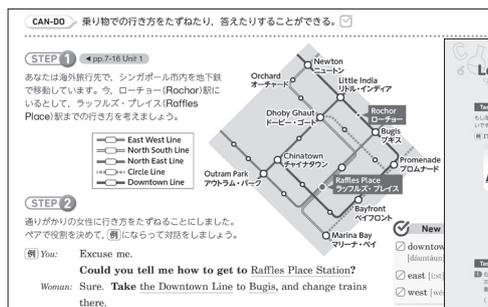
▲意見の述べ方(p.99 学び方コーナー-3)

特色

2

【学びの質の向上】 深い学びへといざなう

- 他者とのコミュニケーションを図る力の育成を重視し、基礎の段階から目的や場面、状況を踏まえることの大切さを前面に出しています。その場で**目的や場面、状況に合わせて英語で表現**できることは中学生にとっての**深い学び**であり、それを繰り返すことでコミュニケーションの力を高めていきます。
- 他教科の内容を英語で学ぶページを設け、**学びの融合**を図ることで、学習内容を深めることにも配慮しています。



▲海外での地下鉄の乗りかえ (p.81 Let's Talk 3 「電車の乗りかえ」)



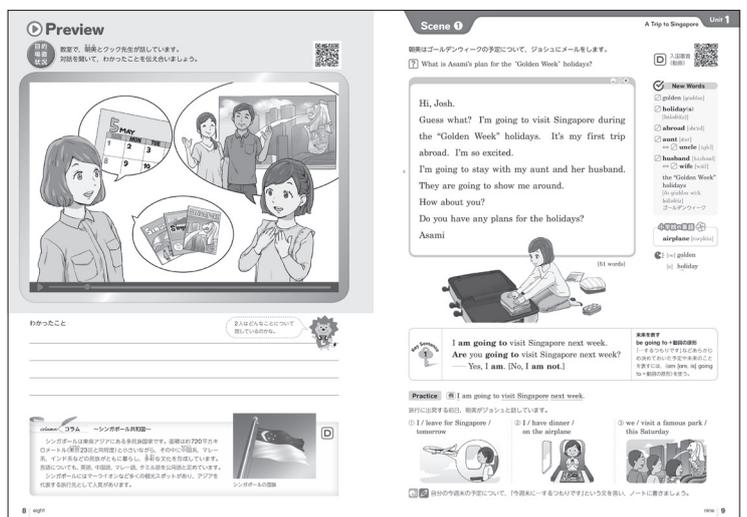
家庭分野と関連した食品表示の見方 (p.19 Learning HOME ECONOMICS in English)

特色

3

【学びの連続性の重視】 小中高の学びをつなげる

- 小中高の連携を図るため、2年生からはUnitの構成を変えて、**読む・書く技能を少しずつ増やし**て、3年生への学習につなげています。
- 文法については、1年生と同様にPreviewから入り、**目的や場面、状況を理解することを重視**しています。
- 1年間で何を学ぶか、どのように学ぶかを最初に示すとともに、巻末にチェックリストを設け、**4技能5領域の力が確実に**つくようにしています。
- このチェックリストは、学習指導要領にもとづいた**東書版CAN-DOリスト**をよりどころにしています。



2. 対照表

図書の構成・内容	留意点	具体例
<p>全体</p>	<p>①基礎・基本となる文や文構造，文法を系統的に学ぶと同時に，それらを単なる知識としてではなく，目的や場面・状況に合わせて活用できるコミュニケーションの力として育成することを目指しています。(第1号)</p> <p>②各Unitで取り上げる題材を通して，異なる文化の発想や考え方を知り，広い視野でものごとをとらえる力や相手の立場に立って理解しようとする態度を育成します。(第1号)</p> <p>③生徒の心情に訴える題材を取り上げ，思いやりや生命の尊さ，郷土を愛する心，国際理解などの道徳心を培うように配慮しています。(第1号)</p> <p>④学年3回の節目で行うStage Activityや巻末には，生徒の興味関心に広く訴える語彙集や資料があり，豊かな自己表現を促します。(第1号)</p> <p>⑤Let's Listen, Let's Talk, Let's Writeでは，言語の使用場面や動きを踏まえたコミュニケーション活動を行い，実生活に生かすことができます。(第2号)</p> <p>⑥Unitで職業体験を取り上げ，勤労意識を醸成するとともに，AIが普及する時代に人間が働くことについて深く考えるようにしています。(第2号)</p> <p>⑦学校での活動や他教科の学習に配慮して教材を配置しています。生徒は，自らの学校生活と重ねて学習が進められます。(第2号)</p> <p>⑧対話的な学習のために，ペアやグループで取り組む活動を豊富に用意しています。Unitで学習したりサーチの方法を生かして自分がりサーチして発表する活動では，相手意識を持って伝えたり，協力し合ったりする心を育みます。(第3号)</p> <p>⑨イラストや写真を含め，男女が協力して家庭生活を営む様子を取り上げています。また，誰もが住みやすい社会を目指す取り組みを題材として扱っています。(第3号)</p> <p>⑩自然を大切にしたり，環境の保全を強く意識したりするような題材を取り上げています。(第4号)</p> <p>⑪世界に日本の良さを発信しようとする生徒を育てるために，伝統や文化，自然に関する題材を取り上げています。(第5号)</p> <p>⑫国語との関連を図り，日本語との関連から，英語について学べるような資料を掲載し，言葉への豊かな感性と情操を育成します。(第5号)</p> <p>⑬グローバル社会で生きることを意識し，海外の生活や文化を理解し，尊重する心を育み，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第5号)</p>	<p>①p.8 Unit 1 [A Trip to Singapore]のPreview, p.11のMini Activity, p.16のUnit Activity</p> <p>②pp.8~16 Unit 1 [A Trip to Singapore] pp.57~66 Unit 4 [Homestay in the United States]</p> <p>③pp.100~103 Let's Read 2 [A Glass of Milk]</p> <div data-bbox="911 443 1445 813"> </div> <p>④pp.48~51 Stage Activity 1 [A Message to Myself in the Future], Word Room 1 [仕事] p.130 Optional Reading 2 [Review Sites]</p> <p>⑤p.20 Let's Listen 1 [機内放送] p.17 Let's Talk 1 [ホテルでのトラブル] p.81 Let's Write 3 [ホームステイのお礼状]</p> <p>⑥p.35 Unit 3 [My Future Job]</p> <div data-bbox="1177 965 1501 1424"> </div> <p>⑦pp.118~121 Stage Activity 3 [My Favorite Place in Our Town]</p> <p>⑧pp.83~92 Unit 6 [Research Your Topic] pp.96~98 Stage Activity 2 [Research and Presentation]</p> <div data-bbox="948 1509 1410 1821"> </div> <p>⑨pp.71~80 Unit 5 [Universal Design]</p> <p>⑩pp.122~126 Let's Read 3 [Pictures and Our Beautiful Planet]</p> <p>⑪, ⑫pp.105~114 Unit 7 [World Heritage Sites]</p> <p>⑬p.69 学び方コーナー2 [音読の仕方] p.94 Grammar for Communication 5 [比較表現のPoint of View] pp.131~133 名作鑑賞 [I'll Always Love You]</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

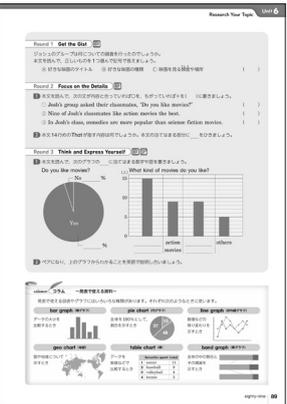
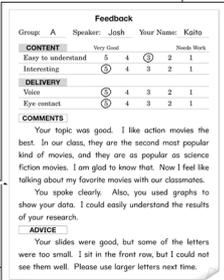
1 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

観点	留意点	具体例
1 特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ①手書きの文字を想定した部分では、視認性に優れ、かつ書きやすさに配慮した、小学校と同じ書体を使用しています。 ②本文やNew Words, Key Sentenceなど、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを見通すことができ、安心して学習に取り組むことができます。New Wordsは背景に色をつけ、要素の区切りを明確にしています。 ③二次元コードをページごとに配し、音声学習に取り組みやすくしています。音声は、p.3に示すURLからもアクセスできます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① p.67 Let's Write 2 「ホームステイのお礼状」 Dear Mr. and Mrs. Wilson, ②③ pp.7～16 Unit 1 「A Trip to Singapore」 
2 ユニバーサルデザインへの取り組み	<p>Unit⇒技能領域別のLet'sシリーズ⇒Stage Activityの3つのメイン単元で構成されています。UnitとLet'sシリーズを積み重ねることで、学期末のStage Activityへと到達できます。このように構成を規則的にし、学習のユニバーサルデザイン化を図っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> pp.2～3 目次「学習の見通しを立てよう」 p.17 Let's Talk 1 「ホテルでのトラブル」 p.20 Let's Listen 1 「機内放送」
3 造本上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ①年間の指導時数がこれまでと同じなので、指導時間を配当しているページ数は増やさないようにしました。また、紙面をA4判にすることで、単語数の増加に応じた本文・語句欄でありながら過度な負担にならないよう配慮しています。 ②ページ数を抑えたうえ、軽量化を図った紙を使用することにより、重くなることを最小限に抑制しています。 ③特殊な糊を使って製本し、ページが大きく開くため、外側に折り返して手に持っても、ページがはがれず、堅牢なつくりです。 ④印刷は鮮明で、豊富な写真やイラストを効果的に配置しています。 	

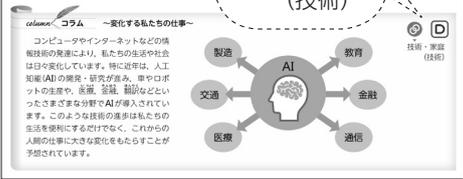
2 今日的な課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1 防災・安全	3年間を通して防災や安全の視点を重視しています。	
2 環境・資源エネルギー	Unitでは自然や文化を守る取り組みを、Let's Readでは今日我々が直面する 環境問題 を、テーマとして大きく扱っています。	<ul style="list-style-type: none"> pp.105～114 Unit 7 「World Heritage Sites」 pp.122～126 Let's Read 3 「Pictures and Our Beautiful Planet」
3 多様性・人権への配慮	題材や人物の出身国は、英語圏や非英語圏、日本とできるだけ 多様な世界の国々から設定 しています。それぞれの国の良さや違いを感じたり、言語や文化に対する理解を深めたりできるようにしています。また 男女のバランス にも配慮しています。	<p>題材で取り上げている国々：シンガポール (Unit 1)、インド (Unit 2)、イギリス (Unit 2)、アメリカ (Unit 4)、イタリア (Unit 7)</p> <p>人物の出身国：オーストラリア、フィリピン、シンガポール、アメリカ</p>
4 伝統・文化	日本の伝統・文化の良さを海外に発信 したり、外国発祥ながら日本で独自の発展を遂げた料理などを紹介し、 新たな視点から自国への理解 を深めたりします。	<ul style="list-style-type: none"> pp.21～30 Unit 2 「Food Travels around the World」 pp.105～114 Unit 7 「World Heritage Sites」
5 道徳教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ①多様な国々を取り上げることで、世界へ目を向け、視野を広げ、平和・国際貢献の精神を育てることができるようにしています。 ②ペアやグループの学習、発表するときなど、相手意識を持って伝え合い、伝わる喜びを感じられるように配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ① pp.8～17 Unit 1 「A Trip to Singapore」 ② pp.118～121 Stage Activity 3 「My Favorite Place in Our Town」
6 小中高の連携	①小中高の連携を図るため、学習指導要領をもとにした 東書版CAN-DOリスト を作成し、それに則って学習目標を設定しています。	①巻末CAN-DOリスト



観点	留意点	具体例																																										
6 小中高の連携	<p>② 2年生では、段階的なリーディングの語数増と課題設定に加え、単語の覚え方や音読の仕方などを解説しています。</p>	<p>② p.33 学び方コーナー1「単語の覚え方」 p.69 学び方コーナー2「音読の仕方」</p>																																										
7 言語力の育成	<p>① 相手に伝わる読み方を学習したり、親しみのある物語の英語の原典を読んだりなど、国語を意識した学習ができるようにしています。</p> <p>② インタビューしたことをレポートにまとめたり、相手意識を持って意見を述べたりするなど、国語における留意点と共通性を持たせ、連携を図っています。</p> <p>③ 非連続型テキストの読解力の育成にも配慮し、グラフの読み取りなどを取り上げています。</p>	<p>① p.69 学び方コーナー2「音読の仕方」 p.94 Grammar for Communication 5「比較表現の Point of View」 pp.131-133 名作鑑賞「I'll Always Love You」</p> <p>②③ pp.88~91 Unit 6「Read and Think」①②</p> <p>クラスメートが書いたフィードバックシートを読み取ります。</p>   <table border="1" data-bbox="1300 425 1524 537"> <thead> <tr> <th>Group</th> <th>A</th> <th>Speaker</th> <th>Josh</th> <th>Your Name</th> <th>Kaito</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CONTENT</td> <td>Very Good</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Easy to understand</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Interesting</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>DELIVERY</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Voice</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Eye contact</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	Group	A	Speaker	Josh	Your Name	Kaito	CONTENT	Very Good	5	4	3	2	Easy to understand	5	4	3	2	1	Interesting	5	4	3	2	1	DELIVERY						Voice	5	4	3	2	1	Eye contact	5	4	3	2	1
Group	A	Speaker	Josh	Your Name	Kaito																																							
CONTENT	Very Good	5	4	3	2																																							
Easy to understand	5	4	3	2	1																																							
Interesting	5	4	3	2	1																																							
DELIVERY																																												
Voice	5	4	3	2	1																																							
Eye contact	5	4	3	2	1																																							

3 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1 授業支援と教員の負担軽減への取り組み	<p>① 1ページあたり1時間を基本とし、時間配当や年間指導計画を把握しやすい構成にしています。</p> <p>② 各Unitのパート構成を同じにしているため、学習の流れを見通しやすくなっています。</p> <p>③ Unitでは扉の写真を使ってオーラルイントロを行ったり、扉に掲げたPoint of Viewと同じ発問をUnitの最後に入れて英語で答えたりする構成を取り入れ、英語で授業に入りやすくしています。</p> <p>④ Point of Viewの発問は、Unitを通して考え続ける内容となっており、題材を通して英語の「見方・考え方」を身につけ、学びを深められるように配慮しています。</p> <p>⑤ 活動で発話・対話したり、書いたりする際の例文を丁寧に示し、指導の際にも子供自身が学習する際にも活用できます。</p> <p>⑥ Stage Activityでは、イラストを使って生徒の活動の姿が見えるようにしており、紙面をたどっていくことで活動ができるようになっています。</p>	<p>① pp.2~3 目次「学習の見通しを立てよう」</p> <p>②③④ pp.105~114 Unit 7「World Heritage Sites」</p>  <p>扉の Point of View で動機づけを行います。</p> <p>▼ Unit末の Point of View で深めます。</p> <p>例) They're unique and precious for people all over the world.</p> <p>⑤⑥ pp.118~120 Stage Activity 3「My Favorite Place in Our Town」</p>
2 カリキュラム・マネジメントへの取り組み	<p>① 他教科と特に関連を図ったページにはマークを示し、該当の内容を多面的に、より深く学べるように配慮しています。さらにDマークがある場合には、p.3に掲載している二次元コードやURLから関連する他教科の教科書紙面が見られます。</p> <p>② 少人数学習を実施する学校が使いやすいように、ペアやグループでの学習を入れたり、進度によって使えるOptional Readingを設けたりしています。</p>	<p>① p.19「Learning HOME ECONOMICS in English」 p.36 Unit 3 Preview「コラム～変化する私たちの仕事～」</p> <p>② pp.128~129 Optional Reading 1「Broadway Musical Shows」</p>
3 教育のICT化への取り組み	<p>① 紙面に付した二次元コードを機器で読み取ることで、手軽に本文と語句欄の音声を聞けるため、学校でも家庭でも音声を活用した学習ができます。音声にはURLからもアクセスが可能です。</p> <p>② Unitの最初に配置しているPreviewには、二次元コードでアニメーションと音声が付しているため、そのUnitで扱っている文法項目を使う「目的・場面・状況」を予想することができ、意味のある文法学習の導入となります。</p> <p>③ 制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。デジタル教科書の使用によって、必要な部分を大きくして見たり、音声へのアクセスが簡単にできたりするため、学習の効率化が図れます。</p>	<p>技術・家庭(技術)</p>   <p>① p.3「使われている主な記号について」</p> <p>② p.8 Unit 1 Preview</p>

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-111	中学校	外国語	英語	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	英語 801	NEW HORIZON English Course 2		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

1

【学びの意欲の喚起】 自立した英語学習者を育てる

●積極的に学びに向かう力

①学ぶ意義と学ぶ意欲の向上

英語を学ぶ意義を知ることは、学ぶ意欲につながり、生涯にわたって学び続ける姿勢にもつながります。冒頭の口絵に示すように、いろいろな国々を取り上げて1年よりテーマを掘り下げて扱うことで、視野を広げ、英語を使って世界に飛び出す勇気を持つことを願っています。本文では、英語で触れるにふさわしい題材や英語を使いたくなる活動を充実させるなど、積極的に**学びに向かう力**を喚起しています。

②目標と評価の一体化

明確な目標を持ち、自分で評価ができるようになると、生徒の力は伸びます。本教科書では、3年間の学びの到達点に向けて、学年、学期、単元ごとにゴールを明示し、一歩ずつ着実に学習を進めます。

③5領域のバランスのよい育成

Unitではバランスよく5領域の力を身につけ、Let'sシリーズで場面や働きに特化した技能を扱います。基礎的・基本的な知識・技能から思考・判断・表現に向かって技能の統合を図り、各ステージ末のStage Activityでは総合的な発信の力に結びつけます。

単元	パート	聞く	読む	やり取り	発表	書く	
Unit	Preview	◎					文法が使われる目的や場面の提示
	Scene 1・2		◎	○	○	○	本文と、場面のある代入問題
	Mini Activity	◎		◎	○	◎	ListenとSpeak & Write
	Read and Think 1・2		◎	○	○	○	長めの本文と、考えを表現する課題
	Unit Activity	○		◎	◎	◎	単元末の発信活動
Let's	Listen	◎		○	○	○	
	Read		◎	○	○		
	Talk			◎			
	Write		○			◎	
Stage Activity		○	○	◎	◎	◎	

各領域のキャラクター達による、思考・判断・表現する際のヒントやアドバイスを各所に示しています。



【学びの質の向上】深い学びへといざなう

●目的・場面・状況を踏まえたコミュニケーション

◀pp.84~85 Unit 6

①意味のある活動がつなぐ深い学び

中学生にとっての深い学びとは、目的・場面・状況に合わせた英語が使えるようになることです。文法事項を導入するUnitでは、そこで扱う文法が使われる目的や場面、状況を想像させるPreviewから入ります。Previewには二次元コードでアニメーション付きの音声を用意し、場面の理解を促します。

②場面のあるパターンプラクティス

各PartのPracticeも本文と関連する場面を取り上げ、単なる入れ替えではなく、意味のある練習ができます。

③確かな文法力

使用場面を提示することで、コミュニケーションを支える文法がしっかり身につきます。学年をまたいだ復習事項は必要に応じて側注でもスパイラルに取り上げました。

▲p.42 Unit 3 Read and Think②

p.46 Grammar for Communication 3 「不定詞」▶

【学びの連続性の重視】小中高の学びをつなげる

●1年から3年へつなげる

①目的のある「読み方」を身につける

UnitのRead and ThinkとLet's Readを中心に、1年生よりも分量を増やし、3年生につなげるために、80~400語レベルまで段階的に語数を増やしています。全部を訳すのではなく、必要な情報を読み取ったり、概要を把握したりするための「読み取り方」と、読後に「考えて表現する力」も身につくように課題を工夫しています。

②「語彙」を増やす

「学び方コーナー」では、生涯役立つ効果的な単語の覚え方を取り上げ、英語学習のコツが身につくようにしています。

▲p.33 学び方コーナー 1

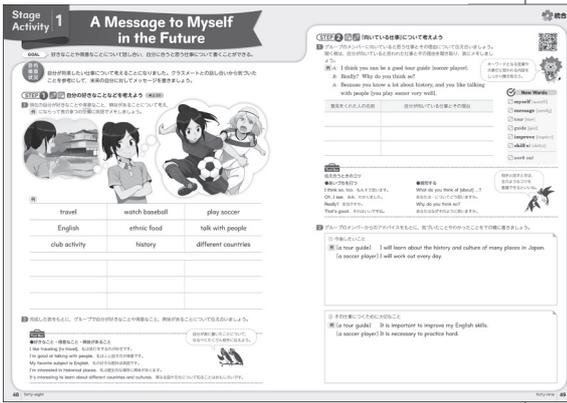
▲p.55 Let's Read 1

読むためのヒント、考えるための材料になるイラストや写真、図表を豊富に示しています。

▲pp.62~65 Unit 4 Read and Think

「読み取り方」の学習につながるリーディング課題は、Round 1 概要をつかむ Round 2 詳細をおさえる Round 3 自分の考えを表現するの3段階で設定しています。文章のタイプに合わせ、英問英答、リテリング、年表完成など様々です。

観点別特色の一覧

観点	具体例
<p>1 教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての日本人に求められるコミュニケーション能力を育みます。英語を学ぶことで身に付く見方・考え方が国や文化の違いを越えて人と人を結ぶ豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことを目指しています。(全体) ●国際社会の一員として、オリンピック・パラリンピックにも見られるような自国の伝統・文化を尊重するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。(pp.21～30 Unit 2, pp.105～114 Unit 7など) ●教育基本法の第2条を遵守しています。(本資料p.3参照)
<p>2 学習指導要領の遵守</p>	<p>▶「目的や場面、状況」についての意識を促すアイコン</p> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校学習指導要領(外国語科)に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成を目指し、その基礎となる言語材料の知識と技能を基盤とし、生徒が自分で思考し、判断したことを適切に表現できることを深い学びととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。(全体) ●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような目的や場面、状況で使われるかを生徒が理解することを重視しています。(Unit 1～7 Previewなど) ●英語で意思や情報を伝え合う対話的な活動や協働して問題解決に当たる活動を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。(Unit 1～7 Unit Activityなど) <div style="text-align: right;">  </div>
<p>3 内容・系統</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校3年間と高等学校以降の学びを見通して、中学2年生での到達点(ゴール)を示しているのので、豊富な言語活動を通して明確な到達点に向かって学習を進めることができます。(pp.2～3 学習の見通しを立てよう、巻末口絵 学習をふり返ろう—CAN-DOリスト—) ●各Unitの冒頭に必ず到達点(ゴール)を示しています。また、最後にも同じ文を載せているので、振り返りや自己評価をすることができます。 ●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、積極的に英語を使う授業の場づくりに資するようにしています。 ●Mini Activity (単元途中)⇒Unit Activity (単元末)⇒Stage Activity (学期末・年3回)という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げていきます。各Activityの内容は以下の通りで、いずれもパフォーマンス評価を行うことができます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) Mini Activity: ①Listenと②Speak & Writeという2種類の活動があり、Unitで学習した文法の定着の確認に重きを置いています。(p.11 Unit 1) (2) Unit Activity: 単元末に、学習した文法の知識を活用しながら複数の技能領域を組み合わせたペアあるいはグループ活動を行います。(p.16 Unit 1) (3) Stage Activity: 学期末に、これまでに積み上げた知識や技能を総合的に扱って発信に結び付ける活動を行います。(pp.48～50 Stage Activity 1) <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>4 組織・配列・分量(スパイラル・学年間接続など)</p>	<p>◆組織・配列</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全てのUnitは、既習事項をスパイラルに学習できる構成になっています。Unit 0は1年の学習を引き継ぎ、Unit 1～7では2年で初出の文法と、特に関連のある1年の文法について取り上げています(p.42, 107)。どのUnitも、その文法の使われる目的・場面・状況を音から導入し、4技能5領域の全てをバランスよく扱います。(本資料p.7参照) ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツを系統的に取り上げ、生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成することを目指します。2年では、「単語の覚え方」(p.33)、「音読の仕方」(p.69)、「意見の述べ方」(p.99)を扱っています。

観点	具体例		
<p>4 組織・配列・分量 (スパイラル・学年間接続など)</p>	<p>◆分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小英が教科化されたことを重視し、また自然なリズムのある英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、高等学校への接続を考え、入試で扱われる分量を想定して英文の量や活動の種類についても充実させています。(全体) ●1年生と同様、小学校の単語が含まれるページでは、そのことがわかるように「小学校の単語」として示し、また、小学校の単語を一覧で資料編に掲載しています。(p.9, 17 など, pp.134~137) ●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を630語と設定し、それに加えて中学校の新出語約1,700語を加えた約2,300語を扱っています。 ●上記約2,300語のうち小学校既習語から468語、中学校新出語から532語の合計1,000語を「特に覚えたい語」と設定し、Word Listで太字で示しています。この1,000語は、全ての生徒の発信語彙として繰り返し提示して定着できるようにしています。(下図★印参照) ●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含め、生徒の負担増を軽減しています。(資料編Optional Readingなど) <p style="text-align: center;">小・中学校で扱う語 約2,300語 ※★は「特に覚えたい語」(合計1,000語)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 小学校の既習語 630語 (★468語) </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 中学校の新出語 約1,700語 <small>本文 約1,200語 本文以外 約500語</small> (★532語) </td> </tr> </table>	小学校の既習語 630語 (★468語)	中学校の新出語 約1,700語 <small>本文 約1,200語 本文以外 約500語</small> (★532語)
小学校の既習語 630語 (★468語)	中学校の新出語 約1,700語 <small>本文 約1,200語 本文以外 約500語</small> (★532語)		
<p>5 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの4技能(5領域)の定着への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CAN-DOリストに基づき、3学年を通して4技能5領域の技能が確実に育成できるようにしています。(本資料p.6参照) ●Unit / Let'sシリーズ(Listen, Read, Talk, Write) / Stage Activityの3つの主要単元で、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成を目指します。いずれの単元でも、言語を使用する目的・場面・状況を意識して活動に取り組めるような仕組みにしています。(本資料p.6参照) 		
<p>6 資質・能力への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力に配慮し、英語を通じて異文化理解を深めたり、多様性を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って共生社会の実現を目指す態度を育成します。(全体) ●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。2年のテーマは、「英語を通じて世界を広げよう一言で世界に飛び出そう」とし、1年の学びを生かし、よりいろいろな国々の文化や歴史に触れて視野を広げ、さまざまな人々の考え方を知り、世界に飛び出す勇気を持ってほしいという願いを込めています。(全体) ●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた活動を扱っています。活動を通して、使える英語が身につくようにしています。(本一覧表p.8の③参照) 		
<p>7 学習方法・授業展開への配慮(アクティブ・ラーニングなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援への配慮をしています。Unitでは本文下に基本文(Key Sentence)と練習(Practice)、本文横に語句欄(New Words)を配置し、関連する活動は見開きの右側に配置しています。語句欄の上にある二次元コードからは、本文と語句欄の音声にアクセスできます。(p.9 Unit 1 など) ●英語で授業を行うことに配慮し、Unitの扉の写真を使ってオーラルイントロを行ったり、Unitの扉と最後にあるPoint of Viewの英語の発問を使って考えさせたりできるようにしています(p.7, p.15 Unit 1)。また、全ての単元でペアやグループ活動を充実させています。さらに、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。 		
<p>8 学習の習慣化への取り組み(規律・態度など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●Word Roomで語彙をジャンル別に豊富に示し、活動で自分が言いたいことを表現するときに使えるようにしています。(p.51 仕事, p.121 場所, pp.156~157 対で覚える形容詞, pp.158~159 前置詞) ●授業以外の場でも英語の音声を聞けるよう、二次元コードを付しています(p.4 Unit 0 など)。二次元コードを利用できない場合は、p.3に示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。 		
<p>9 言語に関する配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●言語力育成への視点から、国語との関連を図っています。相手意識を持ってコミュニケーションを行う大切さをコラムに掲載したり、日本語で親しんだ物語を英語の原文で読む活動を取り入れたりしています。(p.94 Point of View, pp.131~133 名作鑑賞) ●目的に合わせた英語のメールや手紙の書き方について、わかりやすく示しています。(p.45, 67)また、「学び方コーナー」で相手意識を持った「意見の述べ方」をまとめています。(p.99 学び方コーナー2) 		
<p>10 他教科との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CLIL(内容言語統合型学習)への対応として他教科での学習を生かすもの、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。(全体) ●生徒にとって身近な食品表示の海外との違いや、世界中で使われている情報メディアを扱っています。(p.19 Learning HOME ECONOMICS in English, p.47 Learning TECHNOLOGY in English など) 		
<p>11 造本上の工夫(学習への効果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小英の教科化による語彙や英文量増加の一方で、年間授業時間数が増えていないことに配慮し、指導時間を配当するページは増やさないようにするため、A4判を採用しています。学校で使われる用紙サイズにも配慮しています。また、判型を大きくすることで写真等のレイアウトやデザインをダイナミックにし、かつ見やすくしました。 ●軽量化された用紙を使い、かつ、薄くても裏写りしにくいものを使用しています。 		

2. 対照表

2年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所 ページ	配当 時数
			2 内容	3 指導計画の作成 と内容の取扱い*		
Unit 0	My Spring Vacation	1年の学習事項	(1), (2), (3)①イウエオカ, ②	(2)エカ	4~5	2
Unit 1	A Trip to Singapore	be going to / 助動詞 will / show + A + B / call + A + B	(1), (2), (3)①イウエオカ, ②	(2)エカ (3)イ (ア)(イ)(ウ)	7~16	8
Unit 2	Food Travels around the World	接続詞 when / if / that / because			21~30	8
Unit 3	My Future Job	不定詞(副詞的・原因を表す副詞的・ 形容詞的用法) / It is ... + to			35~44	8
Unit 4	Homestay in the United States	have to / 助動詞 must / 動名詞			57~66	8
Unit 5	Universal Design	疑問詞 + to / 主語 + 動詞 + (人) + 疑問詞 + to / 主語 + be 動詞 + 形容詞 + that			71~80	8
Unit 6	Research Your Topic	比較表現			83~92	8
Unit 7	World Heritage Sites	受け身			105~114	8
Let's Listen	1. 機内放送 2. インタビュー 3. 天気予報 4. 電車の運行情報 5. 留守番電話 6. 商品のコマーシャル 7. 店内のアナウンス		(1)ア, (3)①イエオ	(2)イ	20 34 56 70 82 104 117	各1
Let's Read	1. History of Clocks		(1)ウ, (2), (3)①ウエ	(3)イ (ア)(イ)(ウ)	52~55	4
	2. A Glass of Milk				100~103	4
	3. Pictures and Our Beautiful Planet				122~126	5
Let's Talk	1. ホテルでのトラブル, 2. ていねいなお願い, 3. 電車の乗りかえ, 4. 買い物 5. 電話でのやり取り		(1)ウ, (3)①エ, ②		17, 31, 81, 93, 115	各1
Let's Write	1. 留守番電話のメッセージへの返信 2. ホームステイのお礼状		(1)ウ, (3)①イウカ		45, 67	各1
Stage Activity	1. A Message to Myself in the Future (Word Room 1)		(1)ウ, (2), (3)①イウエオカ	(2)カ	48~51	4
	2. Research and Presentation				96~98	3
	3. My Favorite Place in Our Town (Word Room 2)				118~121	4
学び方コーナー	1. 単語の覚え方		(1)アウ	(2)イオ	33	1
	2. 音読の仕方		(1)ア, (3)①ウ		69	1
	3. 意見の述べ方		(3)①エ		99	1
Grammar for Communication	1. 5つの文構造, 2. 接続詞, 3. 不定詞, 4. 助動詞, 5. 比較表現, 6. 受け身		(1)エ	(2)エ	18, 32, 46, 68, 94~95, 116	各1 (5は2)
Learning HOME ECONOMICS in English Learning TECHNOLOGY in English			(3)①ウエ	(1)オ	19, 47	各1
					合計	108

*学習指導要領の内容「3 指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体において扱う。

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-111	中学校	外国語	英語	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	英語 801	NEW HORIZON English Course 2		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
133	名作鑑賞 I'll Always Love You	2	第2 2 (1)エ ※上記項目において過去完了形と仮定法過去完了は扱うこととされていませんが、原文のまま掲載しました。	0.25
合計				0.25

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容